

家庭編

(展開方針 案)

令和元年度「ごみゼロやまがた県民運動」

山形県では、全国一ごみの少ない県を目指して、「第2次山形県循環型社会形成推進計画(中間見直し版)」を策定し、各種施策を実施しています。また、「ごみゼロやまがた推進県民会議」では、それぞれの家庭や職場で取り組むべき「ごみゼロやまがた県民運動」展開方針を次のとおりとし、全県的な県民運動を推進しています。本県の「1人1日当たりのごみの排出量(都道府県別平成29年度実績)」では、山形県は920gで少ない順から全国18位です。平成29年度におけるもっとも少なかった長野県の817gより、約100g多い状況です。

1人1日当たり約100gごみを減らして、全国一ごみの少ない県を目指しましょう。

以下の3つの運動に、各家庭で積極的に取り組みましょう。

約100gとは、例えば…

- ・キャベツ(大)の葉2枚
- ・きゅうり1本
- ・食品トレー約20枚
- ・牛乳パック(1ℓ)約3本
- ・レジ袋約10枚
- ・ティッシュの空箱約3箱

食品ロス削減運動

◆国民1人1日当たりの食品ロス(食べられるのに廃棄される食品)量は約139gに及び、茶碗約1杯のご飯の量に相当します。(出典:農林水産省及び環境省「平成27年度推計」)

◆日本の年間の食品ロス646万t(平成27年度推計)は、国連世界食糧計画による食料援助量約380万tの約1.7倍

○「賞味期限」と「消費期限」の意味を正しく理解しましょう

・未開封で記載された方法で保存した場合に、「賞味期限」は「おいしく食べることのできる期限」、「消費期限」は「安全に食べられる期限」です。

賞味期限を過ぎても食べられないということではありません。すぐ捨てず、におい等で食べられるか判断し、できる限り有効利用しましょう。

○冷蔵庫・食品庫内に『忘れられた食材』は、ありませんか

- ・買い物に出かける前に冷蔵庫、食品庫内をチェックし、必要な量だけ購入しましょう。
- ・不要となった食材は、**フードバンク**などへ寄付をすることで有効に活用することができます。

※ フードバンクとは、家庭や職場で余った食品を持ち寄り食材の確保が困難な個人や福祉団体を支援するための活動、また、それを行う団体。

○食べられる部分まで捨てないで

- ・調理では食材の捨てる部分をできるだけ少なくし、余った料理は冷凍保存しお弁当のおかず等に活用したり、作り替えたりして食べ切りましょう。 **環境にやさしい料理レシピ** (⇒ [インターネットで検索](#))

<生ごみの水切り・堆肥化のすすめ>

- ・生ごみの約8割は水分が占めています。水切りを徹底して水分を減らすだけで、ごみを大きく減らすことができます。
- ・生ごみを自宅で処理して堆肥として家庭菜園で活用しましょう。堆肥化装置への助成を行っている市町村もあります。

プラスチックごみ削減運動

○お買い物はマイバッグで

- ・お買い物にはマイバッグを持参し、レジ袋をもらうのを断りましょう。

○使い捨てプラスチックの使用を減らしましょう

- ・プラスチック製ストローなど、使い捨てプラスチック製品の使用はできるだけ控えましょう。
- ・使い捨てプラスチック製カップ等の利用はできるだけ控え、水筒やマイボトルを活用しましょう。
- ・プラスチック容器入りの洗剤やシャンプー等を買うときは、できるだけ詰め替えできる商品を選択しましょう。

- ◆ 日本の人口1人当たりのプラスチック容器包装の廃棄量は米国に次いで世界第2位(2018国連環境計画報告書)
- ◆ 2050年には、海洋中のプラスチック量が魚の量以上に増加の予測(2016世界経済フォーラム年次総会報告書)
- ◆ EUでは、使い捨てプラスチック食器や発泡スチロール容器の2021年からの使用禁止を検討



酒田市飛島の海岸での漂着ごみ

ごみの分別徹底運動

○雑紙分別で燃やせるごみが大幅減

- ・リサイクルできる紙類を市町村の雑紙回収に出すことで、燃やせるごみを大きく減らせます。

○店頭回収で買い物ついでにリサイクル

- ・お買い物の際はきれいに洗った食品トレーや牛乳パックなどをマイバッグなどに入れて持って行き、スーパー等の店頭回収に出しましょう。段ボールや雑誌等も回収しているスーパーがあります。こまめに回収に出して、家もスッキリごみゼロにしましょう。

○捨てないで! 家庭に眠るレアメタル

- ・不要となったパソコンや携帯電話などの小型家電にはレアメタルなどの貴重な資源が含まれています。各市町村の回収に出しましょう。

○資源回収で地域に貢献しよう

- ・町内会や子供会などが行っている資源の集団回収に積極的に協力しましょう。



ごみゼロやまがた
県民運動キャラクター
『ごみゼロくん』

発行: ごみゼロやまがた推進県民会議

お問い合わせ: ごみゼロやまがた推進県民会議事務局

山形県環境エネルギー部循環型社会推進課

TEL: 023-630-2322 FAX: 023-625-7991

(展開方針 案)

職場編

令和元年度「ごみゼロやまがた県民運動」

山形県では、全国一ごみの少ない県を目指して、「第2次山形県循環型社会形成推進計画（中間見直し版）」を策定し、各種施策を実施しています。また、「ごみゼロやまがた推進県民会議」では、それぞれの家庭や職場で取り組むべき「ごみゼロやまがた県民運動」展開方針を次のとおりとし、全県的な県民運動を推進しています。本県の「1人1日当たりのごみの排出量（都道府県別平成29年度実績）」では、山形県は920gで少ない順から全国18位です。平成29年度におけるもっとも少なかった長野県の817gより、約100g多い状況です。

1人1日当たり約100gごみを減らして、全国一ごみの少ない県を目指しましょう。

職場全体でごみ減量に取り組むことで、環境面だけでなく、経費の削減や生産性・歩留まりの向上、目標管理の徹底、社員等の意識向上など、経営面での効果もあげることができます。以下の3つの運動に、積極的に取り組みましょう。

食品ロスの削減（食べ切り運動）

◆宴会の食べ残しは、食品提供量の14.2%。7皿のうち1皿が廃棄されていることに相当します。（出典：平成27年度農林水産省「食品ロス統計調査・外食調査」）

◆日本の年間の食品ロス646万t(平成27年度推計)は、国連世界食糧計画による食料援助量約380万tの約1.7倍

○食べられる量だけ注文しましょう

食べる人の嗜好や年齢層等を考えながら食べ切れる量に配慮して、メニューや料理の量を選びましょう。

○「3010（さんまる・いちまる）運動」に取り組みましょう

できたての料理を味わい、料理を楽しむ時間を作りましょう。例えば、料理が出てから30分、お開き前10分は、席を立たずに料理を楽しむ時間にするなど、会食毎に呼びかけましょう。

※「2010（にいまる・いちまる）運動」や「2510（にこっと）運動」など、会食の態様に即し適宜アレンジして取り組みましょう。

- ・食品販売関連事業者や飲食店・宿泊業者の方は、「もったいない山形協力店」に登録し、食品ロス削減に向けた取組みを推進しましょう。～ 協力店への登録は県HPから [もったいない山形協力店](#)（⇒ [インターネットで検索](#)）～
- ・不要となった食材は、[フードバンク](#)などへ寄付をすることで有効に活用することができます。

※ フードバンクとは、家庭や職場で余った食品を持ち寄り食材の確保が困難な個人や福祉団体を支援するための活動、また、それを行う団体。

プラスチックごみ削減運動

- ◆ 日本の人口1人当たりのプラスチック容器包装の廃棄量は米国に次いで世界第2位（2018 国連環境計画報告書）
- ◆ 2050年には、海洋中のプラスチック量が魚の量以上に増加の予測（※2016 世界経済フォーラム年次総会報告書）
- ◆ EUでは、使い捨てプラスチック食器や発泡スチロール容器の2021年からの使用禁止を検討

Reduce

（リデュース＝ごみを出さない）

- ・事務用品等の在庫管理の徹底による休眠物品の使用促進
- ・インクなど消耗品が交換・補充できるマーケティングペン、ボールペン等の購入
- ・商品のビニール包装や容器、緩衝材等の簡素化

Reuse

（リユース＝繰り返し使う）

- ・会議やイベント等で、使い捨てプラスチック製食器に替えてリユース食器の使用
- ・社員食堂等におけるプラスチック製ストロー等の使用削減及びリユース食器の使用

Recycle

（リサイクル＝再生利用する）

- ・プラスチック廃棄物の適切な分別の徹底（例：ペットボトル、食品等付着の無いプラスチック、その他のプラスチック 等）

環境にやさしい製品の優先購入運動

製品やサービスを購入する際は、必要性をよく考え、長く使えるものや使い終えたらごみが少なくなるものなど、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入しましょう。

○エコマーク商品や山形県リサイクル認定製品を優先して購入しましょう

[エコマーク商品](#)（⇒ [インターネットで検索](#)）

[山形県リサイクル認定製品一覧](#)（⇒ [インターネットで検索](#)）

発行：ごみゼロやまがた推進県民会議
お問い合わせ：ごみゼロやまがた推進県民会議事務局
山形県環境エネルギー部循環型社会推進課
TEL:023-630-2322 FAX:023-625-7991



ごみゼロやまがた
県民運動キャラクター
『ごみゼロくん』